

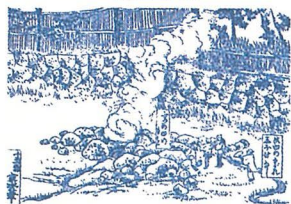
熱海
七湯

風呂の湯 水の湯

Furo no yu/Mizu no yu

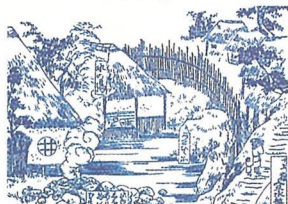
その
四

風呂の湯



(熱海温泉図集)

水の湯



(熱海温泉図集)

「風呂の湯」は、昔の坂町高砂屋の庭から湧き出ていました。今の福島屋旅館の西側です。この湯は外傷に良いといわれ、また、湯気の上騰が盛んで饅頭を蒸したり酒を温めたりして販売していました。「風呂の湯」の傍ら1.5メートルほど東のところに塩分のない温泉が湧き出ていました。明治11年、大内青巒の熱海史誌には、淡白無味常水をあたためるもののごとし、故に「水の湯」と名付くと記されています。

●湯～遊～バス「大湯間歌泉」バス停下車 徒歩5分（福島屋旅館横）

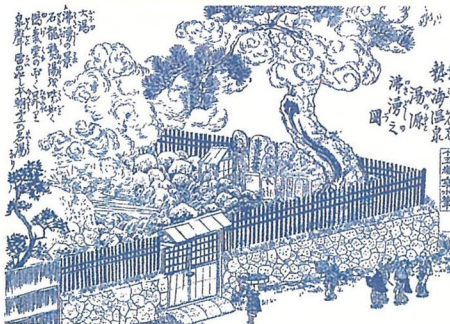
案内板の横の
記念スタンプを
どうぞ

熱海
七湯

大湯

Oyu

その
五



(熱海温泉図集)

古来からの間歌泉で世界でも有名な自噴泉でありました。「大湯」の噴出は昼夜6回で、湯と蒸気を交互に激しい勢いで噴出し、地面が揺れるようであったといいます。明治中ごろから次第に減少し末ごろには止まってしまいましたが、関東大震災のとき再び噴出しました。しかし、その後も噴出回数は減少しつづけ、昭和のはじめついに止ってしまいました。昭和37年に人工的に噴出する間歌泉として整備され、市の文化財として保存し現在に至っています。

●湯～遊～バス「大湯間歌泉」バス停下車 徒歩3分（ニューフジヤホテル 別館横）

案内板の横の
記念スタンプを
どうぞ

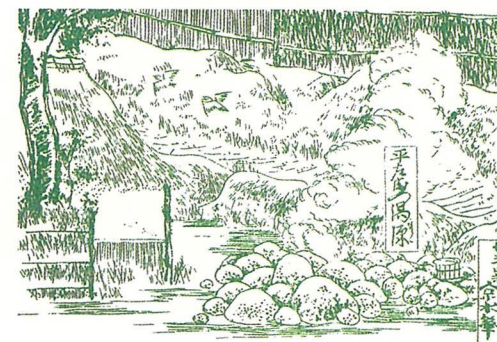
熱海
七湯

小沢の湯

(平左衛門の湯)

KOSAWA NO YU (Heizaemon no yu)

その
六



(熱海温泉図集)

沢口弥左衛門、藤井文次郎、米倉三左衛門の庭の湯を「平左衛門の湯」と称していました。また、土地の人は小沢にあったので「小沢の湯」とも称しました。「清左衛門の湯」と同様、人が大きな声で呼べば大いに湧き、小さな声で呼べば小さく湧き出たといわれています。

●湯～遊～バス「大湯間歌泉」バス停下車 徒歩3分（天神酒店近く）

案内板の横の
記念スタンプを
どうぞ